

## 実践・森づくり技術講座（第2回） 安全管理と下刈り

【開催日】2019年5月18日(土)

【開催場所】鳩ノ巣フィールド（奥多摩町棚沢）

【主催者】FIT 森林塾

### 【一文紹介】

森づくりに欠かせない様々な技術を基礎から学ぶ全5回の連続講座の第2回。今回は「安全管理と下刈り」をテーマに、5月18日に開催しました。

### 【公開記事】

鳩ノ巣駅を降りるとぽつぽつと雨が降り出し、少し天候が気になるスタートでしたが、しばらくすると雨もやみ天気回復へ。下刈り作業の実習にはほどほどの陽気となりました。

広場にて開講式後は、参加者それぞれに大鎌を持ってもらい、早速、山へ。今回は安全管理ということで、薬師堂前での講義からスタートしました。各自、荷物を下ろしてもらい、まずはツタとツタウルシの見分け方です。無害なツタは巻きひげの先端に吸盤がありますが、若い枝の葉はよく似ているので注意が必要です。

安全管理の講義では、なぜ安全管理が必要なのか、ケガや事故を防止するという直接的な目的のほか、事故を起こせば活動の継続性が絶たれてしまうという点もしっかりと認識してほしいという話がありました。また山作業において必ず遭遇するハチについて、その種類、生態から、予防法、万が一刺された場合の対処法について学び、その他熱中症対策などの講義もありました。指導する立場となった場合には、参加者の様子に絶えず気を配り、小さなケガにもしっかりと対応し、参加者に無理をさせないような配慮が必要とのこと。

安全管理の講義終了後は、今回の下刈り作業のフィールドへ移動し、下刈り作業について、その目的と下刈りに使用する大鎌についての構造と取り扱い方、注意点についての講義となりました。

昼食後はよいよ下刈りの実習です。一通り講義で説明は受けたものの、はじめての大鎌と慣れない急斜面での作業ということで、思うように大鎌を動かせず皆さん悪戦苦闘していました。それでも、講師からのアドバイスもあり、徐々に感じをつかめてきているようでした。

作業終了後は西川の河原にて大鎌の手入れを行いました。砥石を使って大鎌の刃を研ぎ直す作業も、砥石を使うこと自体がなかなか難しかったようで、家に帰って包丁研ぎからやってみますという声もありました。

短い実習時間ではありましたが、新しい技術を学んだので、再度、下刈りに挑戦してみたいという感想もあり、参加者の皆さんの満足度は高かったようです。

【スタッフ】講師：小島、関、牧田 事務局：永野

【参加者】受講生7名

【報告者名】永野 修 (29)

【報告写真6枚】



ツタウルシの判別



安全講習



大鎌の使い方講習



下刈り実習①



下刈り実習②



大鎌の手入れ